

琉球大学学術リポジトリ

[創立35周年に寄せて] 35年を振り返る

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 与那覇, 哲義 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015487

9. 35年を振り返る

与那覇 哲 義
(琉球大学農学部)

本研究会は、創立10周年、20周年および30周年記念式典を催し、講演会や本会に多大な援助や協力を賜った個人および団体に感謝状を贈呈された。また、同時に各節目毎に本会活動の経過が詳しく報告されました。これらの経過報告は、本会活動の検証および展望について含蓄があるものである。

御承知のように本会は沖縄農業の向上・発展および会員相互の連携を目的として昭和37年（1962）5月19日に産声をあげた。本会の目的を達成するための事業として、①沖縄農業に関する調査研究、②研究発表会・講演会等の開催、③機関誌の発行、④その他本会の目的達成に必要な事業を行うことである。

爾来35年の青年期を迎えた。創立当初の講演会には常に200余名の会員が出席して熱心な討論が続き、沖縄農業の諸問題の解決に期待が持てる感があった。まさに本会活動の成果は基礎的あるいは応用面で沖縄農業の発展に寄与し、重要な役割を果たしたと考える。会員数は平成8年現在、名誉会員4名、正会員（学生会員を含む）269名および賛助会員12社である。

設立総会および講演会には200余名が出席して盛会裡のスタートとなった。同年12月15日現在、正会員369名および賛助会員は18社であった。その後、会員数は増加したが、昭和47年の日本復帰後は会員数が減少し、これは本会の活動、運営に大きな障害となった。

昭和37年度の会費は正会員1ドル、賛助会員5ドル、会則一部改正により昭和39年度は正会員2ドル、賛助会員8ドル、昭和46年度は正会員3ドル、賛助会員20ドルであった。昭和47年度からは正会員2,000円、賛助会員10,000円、会則一部改正（平成4年7月24日）により正会員3,000円、学生会員1,500円、賛助会員1口10,000円で現在に至っている。

総会および講演会は創立以来、毎年1回継続開催され、平成8年度で35回を数えた。その間、開催時期や

会場は昭和37年度から昭和54年度までは5月か7月の土曜日の午後に琉球大学で開催された。昭和55年度以来は7月、8月の金曜日（1日）に琉球大学と沖縄県農業試験場で隔年開催し、一般講演と特別講演またはシンポジウムが行われた。昭和41年度および昭和50年度には日本熱帯農業学会との合同講演会が開催された。

第35回までの一般講演は406題、特別講演は32題、記念講演は4題およびシンポジウムが10回行われた。

会誌「沖縄農業」は年2回発行が原則であり、第1巻から第9巻（1962～1970）は2号発行した。しかし、第10巻から第31巻は合併号の発行となり、しかも、昭和47年度、昭和52年度および昭和57年度の会誌は休刊となった。その要因は会員数の減少による財源不足および投稿論文数の激減であったと思われるが遺憾である。

沖縄農業研第1巻～第31巻（通算41号）の掲載論文数は363編である。

また、会誌とは別に10周年記念誌「沖縄農業関係文献目録Ⅰ」20周年記念誌「沖縄農業関係文献目録Ⅱ」30周年記念誌「沖縄農業関係文献目録Ⅲ」が発行された。前述したように本研究会は創立以来、沖縄農業に関する研究発表会・講演会および会誌発行が継続的に実行されている。

本会の歩みをみますと、そのあゆみには幾多の苦難があった。まず、貧困財政の解消は長年の課題であり、会員数や広告数などの拡大による財源確保に努めている。次に投稿論文数の減少であって解決策が各面から検討された。

日本復帰後には本会の発展的解消の声があがり本会存続がやぶむられたが、賢明な会員諸氏の結束によって存続されてきた。しかしながら復帰後遺症は癒えずに本会活動は低迷を続けた。

このような状況をふまえ、昭和60年10月に活性化委

員会（10名）が設置され、諸問題を検討し、昭和61年に委員会の答申が総会で承認された。その後、多数の会員が出席して終日、研究発表会および講演会が開催されている。また、平成6年11月には「さとうきび生産技術セミナー」が久米島で開催され、念願の企画が実施に移された。

会誌「沖縄農業」は、未だに2号発行には回復していないが、第28巻（1993）からは従来の研究報告の他に総説、沖縄農業の特集、解説など会誌内容の刷新が

行なわれた。これまでの実績をふまえ、本研究会が足腰強く生長するためには会員各位が本会活動に積極的に参加し、献身的な協力は欠かせない栄養源であると思います。今後とも会員の一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、掲載した講演会の記録および沖縄農業総目次が活用され、会員の研鑽に役立つことがあれば望外の幸いである。